

デジタル掛け軸(D-K)ってどんなもの？ プロジェクションマッピングと何が違うのですか？

よく問い合わせをいただきます。

デジタル掛け軸は恐竜が飛び出してきたりしないので、派手なイメージはありません。

D-Kは世界的空間照明アーティスト長谷川章氏が創作した新しい芸術です。

15年の歳月を費やして生み出された色彩がおりなす画像は、地球の速度で変化し、ゆったりとした時間を作り出します。

そのコンセプトはだいぶ異なりますが、DKは現在でいうところのプロジェクションマッピングの先駆けとも言えるものです。

2006年、最大級のエレクトリックアートサンノゼZERO ONE ARTフェスティバル2006が行われました。

世界のトップアーティストがモニタ上で、また映画館のスクリーンで作品を上映し、しのぎを削っていましたが、それらを観覧して映画館を出た途端、サンノゼの街がD-Kで染まったそうです。

一同の度肝を抜いて殿堂入りを果たし、さらに翌年、アメリカパブリックアート2007のベストアーティスト賞を受賞しました。

それから十数年経って、今日のプロジェクションマッピングとになって波及していったのです。

しかし、DKは既存のプロジェクションマッピングとは一線を画しています。

DKはなにかの表現ではないからです。一般的にプロジェクションマッピングはなんらかの物語や、あるいはなにかの感情、情景を作り出したりしていますが、DKはそのようなものではありません。

アートは、絵画や彫刻、版画、写真などのように被写体や風景を固定するか、あるいは逆に映画やアニメーションのように動かして何かを表現するかの両極が主流だったと言えるでしょう。

DKはここに、固定でも流動でもない、「移ろい」という新しい表現カテゴリーを創造したのです。

また一般的なプロジェクションマッピングは作られた映像が主役ですが、D-Kは投影されたものが主役となります。ですので、谷川岳やそこに溶け込む人々がアートとなるのです。

またプロジェクターから映し出された光量は地上に到達する場合は0ルーメンという結果もあり環境にもとてもやさしく、富山県国際伝統医学センターでの研究でも脳や筋肉にリラックス効果をもたられる結果が出ました。

プチコラム

デジタル掛け軸って どういうもの？



また著名な方々からのコメントもあります。(次ページへ)▶

デジタル掛け軸についての 著名な方からのコメント

茂木 健一氏(脳化学者)

Kenichiro Mogi

なんか、時間の流れがやっぱり独特で、変化していることに気づかないんだけど、ふと気づくと、ものすごい大きな変化がおきているっていうのが、ものすごく人間の脳にとってはいい刺激なのかと思いました。ですからちょうどね、人生って毎日毎日変化しているんだけど、なんかそれに気づかないで、はっと気づくとわかる。子供なんかもそうですよね。ものすごい大きく変わっているっていうのがあるんですけど。それと同じような時間の流れ感じさせますね。だから今の世の中って意外と情報化とか言って、すごく慌しくて次から次へと情報が移り変わっていくんですけども。こういうゆったりとした変化を感じさせるような情報って意外にないと思います。そういう意味でいうと、ものすごく現代ではあんまりないすごく貴重な体験をさせていただいたなと思いました。あ、生命ってこんなものなんだなって思います。もともとは、秒刻みで流れていくものではなくて、こんなふうにゆったりと流れて、ほんとに流れていくもんなんだなって、なんかうねりというか流れというか、そういうものを感じさせる表現ですね。うねり、流れ、宇宙とつながっている、極端に言えばね。不思議ですね、周りの暗闇もより親しみを込めて、見れるようになりますね。かえるの声とか。インターネットの慌しい情報の流れとはまたぜんぜん違う、こういうゆったりとした流れもたまにはいいなと思います。

高橋 世織拝(映像評論家)

Seori Takahashi

近江高島では感動的なD-K体験出来て誠に光栄でした。いまだに身体に残っております。空前絶後のD-Kプロジェクトは、ありとあらゆるジャンル(ジェンダーと同根語義)を越境してしまう、まったく新しいイベント(事件)です。プロジェクション(投影、射映)という心象行為の本質が初めて我々に提示され投げ渡されたわけです。まさに事件です。このドキドキさ、たじろぎ、眩暈(めまい)、ざわめき、を私は言語のレベルに落とし込まないわけにはいかない。

富山県国際伝統医学センターでのDKの研究取り組みの成果

今回、データを解析してみて、非常に驚かされました。まさにサプライズです。脳(前頭葉 前前頭野表面)や筋肉(僧帽筋)の酸素代謝が、30分間のDKと対照の30分間の白色光とで明らかに異なるのです。また、唾液中IgA(ストレス度と同時に口腔内免疫機能の指標)濃度や、尿中セロトニンや尿中ノルアドレナリン排泄、脳波所見(武者らの感性解析)などで明らかに有意差が認められました。もちろん、変性意識体験の深さもDKにより有意に深くなるのが得られ、DKが不安を軽減させる効果も得られたのですが、これらは人為的にいくらかでも良いように回答できます。しかし、前述のような客観的な検査結果でも明確に差が出たということは、DKが確かに人体に関して作用していることを示しています。今後、対照実験の設定をいろいろと変更したり、DKの長期的な作用に関して研究すれば、今後の代替医療や伝統医学の発展だけでなく、現代医学の脳科学の発展にもつながることでしょう。

上馬場 和夫 拝